

## 大学史資料館館長ご挨拶



大学史資料館館長  
人間文化研究科 教授 山田 美香

大学史資料館では、昨年度から各学部・研究科の歴史を振り返るシンポジウムを行っております。各学部・研究科の設立経緯や教育の特色などは大きく異なりますが、すべて本学の歴史の一部と言えます。

今年度は、大学史資料館の伊藤委員や中川研究科長のご尽力により、薬学部・薬学研究科でシンポジウムを行うことができました。講演者は、薬学部同窓会薬友会会長の河村典久氏、内藤記念くすり博物館長森田宏氏のお二人です。河村氏

は、本学薬学部の140年の歴史を薬学校までさかのぼり、時代とともに変化した薬学校と地域の結びつきについてお話をされました。また、森田氏は、江戸時代の疫学と感染症の恐さ、それに対処する社会の在り方や新薬発見についてお話いただきました。お二人のご講演には多くの視聴者から反応があり、今回のシンポジウムの成果を感じることができました。来年度以降も引き続き各学部・研究科のシンポジウムを行う予定です。

## 名古屋市立大学大学史資料館シンポジウムを開催しました

令和7(2025)年2月6日(木)、オンラインにて本学在学生・卒業生・教職員、一般の方を対象とする大学史資料館シンポジウムを開催しました。今年度は薬学部・薬学研究科を取り上げ、本学薬学部同窓会薬友会 会長 河村典久氏と内藤記念くすり博物館 館長 森田宏氏をお招きし、ご講演いただきました。

河村典久氏には、本学薬学部について、そのルーツまで遡り戦前から戦中そして戦後と困難な時代を乗り越えて積み重ねてきた発展の歴史と、設立母体の変更や移転に次ぐ移転を経て瑞穂区田辺通に現在のキャンパスを構えるに至った紆余曲折の経緯をお話しいただきました。また、森田宏氏には、江戸期の感染症について、豊富かつ貴重な資料をもとに、その時代に生きた人々がどのように感染症と闘い治療薬や治療法の開発に試行錯誤してきたのか、当時の文化や時代背景を交えながらお話しいただきました。

57名の方にご視聴いただき、アンケートには「私立名古屋薬学校時代からの歴史を興味深く学ぶことができ、参加して良かった」「江戸期の麻酔や天然痘の話など、貴重な資料とともに大変印象深かった」などのお声を寄せていただきました。また、本学資料館の果たす役割への期待のお声もあり、今後の励みとなりました。

本シンポジウムの動画は<https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/>にて公開しておりますので、ぜひご覧ください。



左から中川研究科長、河村氏、森田氏、山田資料館長



左から河村氏、森田氏

## 名古屋市立大学の沿革・4 ～薬学部の発展～

名古屋市立大学薬学部は、昭和25年(1950)の名古屋市立大学誕生とともに歩みを開始しました。その前身校の一つである名古屋薬科大学は、明治17年(1884)に設立された私立名古屋薬学校を始まりとし、何度かの休校や移転、昇格や統合の後に現在の名古屋市立大学薬学部となりました。ここではその歩みを私立名古屋薬学校設立の時代から順を追って見ていきます。

### (名古屋市立大学薬学部誕生まで)

#### ①私立名古屋薬学校の設立

名古屋薬学校は、明治8年(1875)に愛知県によって設立が計画されましたが、県立病院の新築及び医学校の拡充問題が先決であるとし、薬学校設立案は当時の県議会で否決され見送りとなりました。そうした中、名古屋製薬会社が明治17年(1884)に私立名古屋薬学校を現在の中区錦の土地に設立しました。



名古屋薬学校校長  
藤本 理氏と  
卒業証書

#### ②私立愛知薬学校と改称

校長と講師の不祥事件により、明治23年(1890)、私立名古屋薬学校は組織や講師を再編し校名を私立愛知薬学校へと改称するとともに、校舎を現在の中区栄に移転しました。日清戦争などによる休校期間があったものの、明治40年(1907)から大正5年(1916)に至る10年間は生徒数の増加や校舎の新築による移転などが行われ、私立愛知薬学校は最隆盛期を迎えました。

#### ③私立愛知高等薬学校の開設

大正2年(1913)、乙種薬学校を廃止し甲種薬学校に昇格させることを目的とする薬剤師試験改正規則が文部省から発布されました。乙種薬学校であった私立愛知薬学校は、経営上の理由から昇格は不可能と判断し大正10年(1921)に閉校することとなります。しかし、その後、宮田専治(1887～1968)等同窓生の尽力により、昭和6年(1931)に現在の緑区鳴海町に私立愛知高等薬学校が開校しました。

#### ④私立名古屋薬学専門学校への昇格

私立愛知高等薬学校では、開校当時から専門学校への昇格を希望する声が上がりましたが父兄も参加する昇格運動が起こりました。そして、開校から5年後の昭和11年(1936)に私立名古屋薬学専門学校が誕生し、私立愛知高等薬学校は廃校となりました。私立名古屋薬学専門学校の修業年限は3年で、私立愛知高等薬学校の在校生には編入学が認められました。翌年の昭和12年(1937)には専攻科が設置されました。



名古屋薬学専門学校 校門

#### ⑤公立名古屋薬学専門学校の開設

昭和13年(1938)、国家総動員法が公布され戦時体制が強化される中で、ガソリンが配給制となり研究・実習用のエアガスの使用の節約が迫られました。戦火はさらに厳しくなりエアガスの使用が絶望的になる中で、学校の存続のため名古屋市へ移管し公立化することが検討されます。そして、昭和21年(1946)、公立名古屋薬学専門学校が発足しました。翌年には男女共学となり、はじめて女子生徒5名が入学しました。

#### ⑥名古屋市立名古屋薬科大学への昇格

昭和22年(1947)、教育基本法及び学校教育法が公布され、全国で学校制度の改革が起こり、公立名古屋薬学専門学校も新制薬科大学開学への道を歩み始めます。昭和23年(1948)には薬事法が改正され、薬剤

師国家試験の実施が定められました。公立名古屋薬学専門学校は施設や教授陣など新制大学としての条件を整え、昭和24年(1949)に市立の名古屋薬科大学として認可され、大学に昇格しました。入学定員は80名でした。

#### ⑦名古屋市立大学の誕生

大学への昇格も束の間、名古屋薬科大学と名古屋女子医科大学を統合し名古屋市立大学を設置する案が検討されます。名古屋市議会での議決を経て、昭和25年(1950)に文科省により設置認可され名古屋市立大学が発足しました。初代学長には戸谷銀三郎(1883～1970)が就任しました。こうして名古屋市立名古屋薬科大学は名古屋市立大学の薬学部となり、以後の歴史を歩んでいきます。

### (名古屋市立大学薬学部の発展)

#### ①田辺通キャンパスへの移転

薬学部は、昭和28年(1953)、山崎川西側の萩山町に移転を遂げますが、まもなく山崎川東側の田辺通地区にあった医学部が川澄地区へと移転しました。その跡地に薬学部は全面移転を行ない、田辺通キャンパスに教育研究の居を構えることとなります。それから40年以上の歳月が経過し建物の老朽化が深刻になり、平成20年(2008)に新棟の建築に着手、平成25年(2013)に現在の薬学部田辺通キャンパス新校舎の全面改築が完了しました。

#### ②大学院薬学研究科の設置

昭和36年(1961)、薬学研究科修士課程の設置が認可されました。入学定員は16名、修業年限は修士課程2年で8講座でした。認可にあたって文部省は大学院としての機能を十分に発揮するための留意事項を示し、大学はこの留意事項の実現のため薬学部の校舎の造営、薬草園の増補整備を実施するとともに、医学部にアイソトープ研究室を設置しました。設置当初は薬学科のみの1学科制でした。

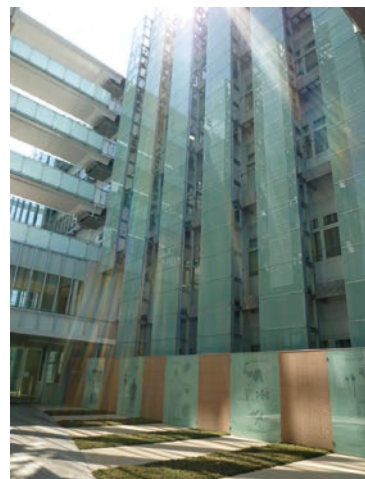
#### ③学科の増設

昭和46年(1971)に薬学部は2学科制(薬学科、製薬学科)となり、平成18年(2006)、学校教育法の改正により薬学科は6年制課程、製薬学科は4年制課程の生命薬科学科へと改編されます。薬学科では、薬剤師国家試験の受験資格を得ることができ、薬剤師など医療に関わる分野で貢献できる人材を、生命薬科学科では、医薬品の開発研究者など生命科学と医療の発展に貢献できる人材を育成する教育課程が編成されました。

#### ④薬学研究科の発展

昭和41年(1966)、大学院薬学研究科博士課程が発足しました。そして、昭和50年(1975)、薬学研究科は博士前期課程と博士後期課程に再編されます。平成13年(2001)には、大学院薬学研究科の専攻が再編され入学定員が増員されます。さらに、平成22年(2010)には、4年制の学士課程に対応した博士前期課程(2年制)の改組を行ない、博士前期課程・後期課程とも創薬生命科学専攻としました。続けて、平成24年(2012)、6年制の学士課程に対応した4年制の大学院博士課程を設置し、医療機能薬学専攻とします。あわせて、博士後期課程(3年制)の改組を行ないました。

また、薬学研究科では平成25年(2013)から、名古屋工業大学との共同大学院である共同ナノメディン科学専攻を設置し、薬工融合型の研究と人材育成を開始しました。これにより、現在、薬学研究科は、創薬生命科学専攻、医療機能薬学専攻、共同ナノメディン科学専攻の3専攻となっています。



現在の薬学部研究棟

参考文献 名古屋市立大学70年史



## 八高古墳の発掘調査を行っています

本学の滝子キャンパスには、二基の古墳があります。それぞれ「八高古墳」と「八高二号墳」と呼ばれており、その名称はかつてこの地に旧制第八高等学校があったことに由来するものです。現在、滝子キャンパスでは施設の再編整備を計画中ですが、新棟の建設予定地が「八高古墳」の周縁部に近いことから、埋蔵文化財調査とその記録保存のため令和6年7月より発掘調査を行っています。この調査における出土品等は新棟に設置予定の大学史資料館サテライトに展示予定ですが、これまでに分かっている成果の一部をご紹介します。



八高古墳を上空から撮影した写真

(参考資料：(株)イビソク「八高古墳発掘調査進捗報告」(第1号～第5号)、「八高古墳現場説明会資料」(令和6年11月9日、10日実施))

### 八高古墳とは？

現存の全長40mの前方後円墳で、これまで採取された埴輪などから古墳時代前期末から中期初頭のものと考えられています。

### 墳丘に渡る渡り土手を発見！

渡り土手とは、墳丘と周堤をつなぐ土橋状の施設で墳丘に渡るための通路です。名古屋市内では、守山区の志段味古墳群の白鳥塚古墳(国史跡)に次ぐ2例目の発見です。

### 葺石(ふきいし)の敷かれた周溝と周堤を発見！

葺石とは古墳の墳丘斜面などに敷き詰められた礫のことで、封土の流出を防ぐ働きがあります。葺石が敷かれた部分(礫群)は周溝の縁にあたるため、古墳の大きさを知る手がかりとなります。現在、1・2号館が建っている古墳北側の墳丘側にも葺石があったことで、八高古墳はこれまでの研究で考えられた墳丘の規模より大きかったと予想されます。

### 周溝から埴輪が出土！

周溝内から埴輪が出土し、特に墳丘近くで円筒埴輪の破片が多く発見されました。円筒埴輪とは、土管のような細長い形の埴輪です。埴輪は、最初から人型や動物、家などの様な形をしていたわけではなく、最初は円筒埴輪から始まったと考えられています。一部、朝顔形埴輪や形象埴輪などもあり、形象埴輪は蓋形埴輪の破片が出土しています。蓋は権力者が使用する「かさ」状のもので権威の象徴と考えられています。

### 古墳時代以降の痕跡も発見！

古墳時代以外の暮らしの痕跡も見つかっており、室町時代の茶碗や壺に加えて、江戸時代末期から明治時代初めに掘られた穴に窯道具が見つかり、この時期墳丘に窯があったことが明らかとなりました。さらに、明治41年に設立された第八高等学校の寮で用いられた井も発見されました。

令和7年度には、今回の発掘調査で調査することが難しかった一部の範囲についてキャンパス整備工事での掘削時に追加で調査を行う予定です。また、発掘調査の整理が始まり、調査成果をまとめていくこととなります。

## 展示品の紹介

### 「本草綱目」 ～大神文庫から～

「本草綱目」



『本草綱目』は中国 明代の本草学者・李時珍による本草書です。日本の慶長元年にあたる1596年に初版が刊行されました。初版はその出版地から「金陵本」と呼ばれています。旧来の本草書の分類・記述法を改め、薬物学的な記述のみならず、動植物の形態などの博物誌的記述を加えた斬新なもので、

日本では慶長12年(1607)、林羅山が長崎で『本草綱目』を入手し、徳川家康に献上したと伝えられています。

日本の本草学は本書の影響を強く受けており、本草学の基本書として種々の版本が刊行されました。本学の大学史資料館には江戸時代の版本4冊が展示されています。

#### 大神文庫について

大神文庫は、名古屋市立大学薬学部の前身である名古屋薬学専門学校を昭和17年(1942年)に卒業された 漢方研究者・故大神薫氏が収集された334点に及ぶ漢方古医書類で、平成元年(1989年)にご遺族から寄贈されました。

蒐集範囲は非常に広く、古方医書・後世方医書はもとより、養生書や上記で紹介した本草書などを網羅しています。特に、傷寒論関係書籍は充実しており、本山親重の「傷寒論考文」刊行は、このコレクションによって初めてその存在が確認されました。

大神文庫は、本学薬学研究科・薬学部を擁する田辺通キャンパス内の図書館(総合情報センター田辺通分館)にて所蔵・管理しており、館内閲覧のみですが御覧いただくことができます。

所蔵目録はこちらから確認できます。▶

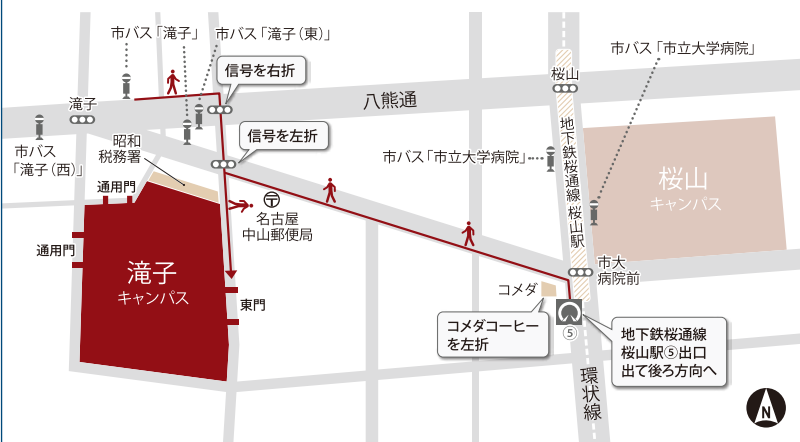
大神文庫 (田辺通分館)



## 利用のご案内

■開館時間 / Opening hours 平日 9:00~17:00 / Weekdays 9:00-17:00

### ■滝子キャンパスまでのアクセス図 / Direction to Takiko Campus



### ■名古屋市立大学大学史資料館への行き方 / Campus Map



〒467-8501  
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1  
名古屋市立大学 滝子キャンパス学生会館2階  
1, Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku,  
Nagoya-city, 467-8501  
Nagoya City University Takiko Campus

#### ACCESS

- 地下鉄 / Subway • 桜通線「桜山」駅下車5番出口より徒歩12分  
12 min on foot from Exit 5 of "Sakurayama," Sakura-dori Line
- 市バス / City Bus • 金山駅 金山7番のりばより金山11・12・16「滝子」下車  
Take "Kanayama Route 11, 12 or 16" bus at Kanayama Depot 7, and get off at "Takiko."  
• 金山駅 金山8番のりばより金山14(桜山経由)「滝子」下車  
Take "Kanayama Route 14 (via Sakurayama)" bus at Kanayama Depot 8, and get off at "Takiko."

NCU Histreet No.004

発行月:2025年3月  
発行元:公立大学法人名古屋市立大学大学史資料館  
〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1  
TEL:052-872-5796 FAX:052-872-5781  
URL: <https://www.nagoya-cu.ac.jp/archives/>